

夢を描き、主体的に行動できる生徒の育成
目標と評価の一体化による共に学び合い深め合う授業の工夫
— 仮説 —

- ① 学びがいがある授業づくりを行い、自尊感情を育てる関わりをすれば「学びに向かう力」が育つ
- ② キャリア教育を推進すれば、夢や目標を持った生徒に育つ

学校教育目標達成のために、具体的に取り組むこと

1 学びがいのある授業づくりを行う。

「学びがいのある授業」＝・子どもが動き、子ども同士の対話のある授業
・子どもが考えてみたくなる発問や課題提示のある授業

＜ 学びがいのある授業をつくるための手立て ＞

1. 授業のメインターゲットをしぼる。目標を子どもの姿で明確にイメージする。子どもに見通しを持たせる。
 - 「今日のねらい」の明示（目標と評価の一体化）
 - 教科シラバス、テスト用ナビゲーションシートの活用
2. アクティブ・ラーニングを活用した授業の工夫をする。
 - 少人数学習、協同学習、表現活動等の活用
(ペアやグループ等で考えを伝え合ったり、教え合ったり＝共有化)
 - 思考したくなるような魅力的で挑戦的な教材や学習課題
 - 一時間の大部分が学習者に委ねられる授業
3. 個々人の中に「わかった感」を残す工夫をする。
 - 見やすい、分かりやすい板書、ノートやファイル、教材・教具の工夫
(説明や指示などを、板書や絵、写真、映像などによって視覚的に示す＝視覚化)
 - 「今日のねらい」の振り返り

2 自尊感情を育てる関わりをする。

ルール（集団生活をする上でのルール）とリレーション（安心して本音を語れる信頼関係）がバランス良く確立された学級、学年、学校づくりをする。

- 月一回のクラスチェック実施
 - 立腰教育、無言清掃、部活動集会、東中グレードアップ月間
 - Q-U の実施、分析、改善
 - 「明日につながる連絡帳」の活用
- } ルールの確立
} リレーションの確立

3 キャリア教育を推進する。

「キャリア教育」＝「自分は何のために生まれてきたのか」「自分の人生で社会の中での役割は何か」など長期にわたる人生設計や自分というものを常に考えさせる教育

＜ キャリア教育推進のための手立て ＞

1. 子どもに「今学校で学んでいることと自分の将来とのつながり」を考えさせる。
 - 教科シラバス、伊丹市キャリア学習ノートの活用
 - 学ぶことの意味・価値等の提示
2. 異学年交流を通して自他を理解する力、人間関係を形成する力、課題を解決する力をつけさせる。
 - きょうだい学級の活用
3. 子どもたちが多様な人々と触れ合いながら学べる環境を提供する。
 - 東中地域活性隊
 - 東中ファミリーサポーターズとの連携